

第 361 回 大阪大学臨床栄養研究会(CNC)

日時：平成 27 年 10 月 19 日（月）18：00～

場所：大阪大学医学部 講義棟 2 階 B 講堂（吹田市山田丘 2-2）

「術後回復促進 ESSENSE プロジェクトの取り組み」

関西医科大学 外科学講座 海堀昌樹先生

術後回復促進の取り組みとして、この数年 ERAS が急速に普及している。

ERAS とは、Enhance Recovery After Surgery の頭文字をとったもので、術後早期回復につながると有効性が認められた手法を取り入れた管理方法である。2001 年に ESPEN（欧州静脈経腸栄養学会）において ERAS group が組織され、2005 年に大腸切除術を対象とした ERAS プロトコルをコンセンサスレビューとして発表した。その後大腸切除術にとどまらず他領域の手術でも対象とするようになった。

日本外科代謝栄養学会では、この ERAS を日本で展開するにあたって、そのまま取り入れるのではなく、各項目を吟味してエッセンスを抽出把握するための、ESSENSE（ESsential Strategy for Early Normalization after Surgery with patient's）プロジェクトがスタートしている。当科肝臓外科手術における ESSENSE プロジェクトの取り組み、およびその結果を報告させていただく。

また最近のトピックスとして、肝細胞癌とサルコペニアの関連が報告されているが、「筋肉の質」である骨格筋の脂肪化と肝細胞癌に関する報告は少ない。慢性肝炎からの発癌には耐糖能異常やインスリン抵抗性が関与することが知られており、骨格筋脂肪化もインスリン抵抗性に関与することが明らかとなってきた。今回私たちは、骨格筋量および骨格筋脂肪化が肝癌術後の生存に及ぼす影響、またその意義を検討した結果、手術前後の骨格筋脂肪化に対して約 6 か月間の運動介入および分岐鎖アミノ酸製剤継続服用はインスリン抵抗を改善することにより、術後の肝発癌を抑制しうる可能性が示唆された。

本セミナーでは、筋肉脂肪化改善・インスリン抵抗改善効果を目的とした ESSENSE プロジェクトにおける周術期運動療法の役割を中心に、周術期の代謝栄養管理の参考にしていただけるような内容でお話できればと思います。

世話人：看護実践開発科学 梅下 浩司

E-mail：umeshita@sahs.med.osaka-u.ac.jp

次回、362 回 CNC は守山敏樹先生のお世話で平成 27 年 11 月 9 日開催予定です。